

## ( 0 8 ) 目 次

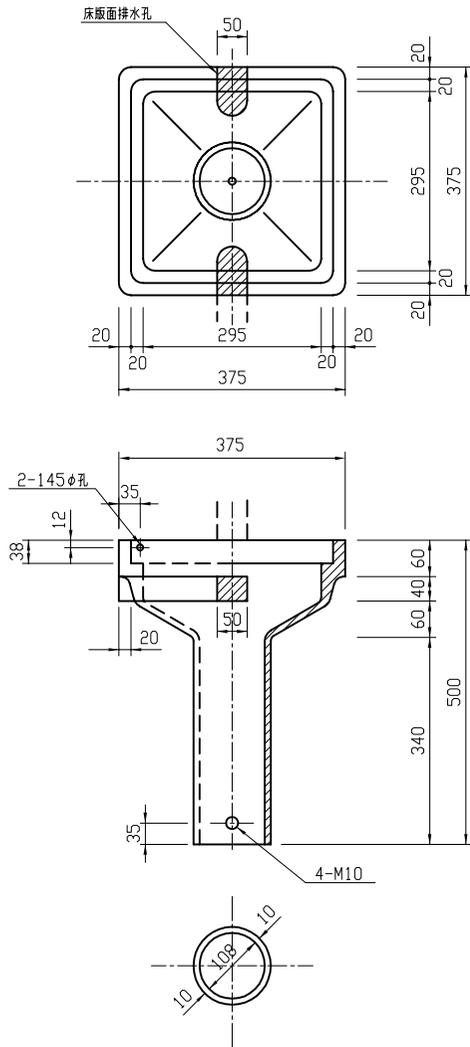
0 8 - 0 1	排水装置 (排水ます)
0 8 - 0 2	排水装置 (導水管)
0 8 - 0 3	踏掛版受台
0 8 - 0 4	踏掛版受台 型 ( L A 5 . 0 0 )
0 8 - 0 5	踏掛版受台 型 ( L A 7 . 0 0 )
0 8 - 0 6	踏掛版受台 (歩道)
0 8 - 0 7	踏掛版 (歩道) ( t = 360 mm )
0 8 - 0 8	踏掛版 (歩道) ( t = 430 mm )
0 8 - 0 9	車両用防護柵 A種 (ベースプレート方式)
0 8 - 1 0	車両用防護柵 B種 (ベースプレート方式)
0 8 - 1 1	歩道用高欄 縦棧型 (ベースプレート方式)
0 8 - 1 2 - 0 1	コンクリート壁式防護柵 SC種
0 8 - 1 2 - 0 2	コンクリート壁式防護柵 SC種 (目地部)
0 8 - 1 3	高欄兼用型車両用防護柵 A種 縦棧型 (ベースプレート方式)
0 8 - 1 4	高欄兼用型車両用防護柵 B種 縦棧型 (ベースプレート方式)
0 8 - 1 5	車両用防護柵 Gr - A 2 - 2 B (ベースプレート方式)
0 8 - 1 6	車両用防護柵 Gr - B 2 - 2 B (ベースプレート方式)
0 8 - 1 7	車両用防護柵 Gr - C 2 - 2 B (ベースプレート方式)

図面番号  
名称

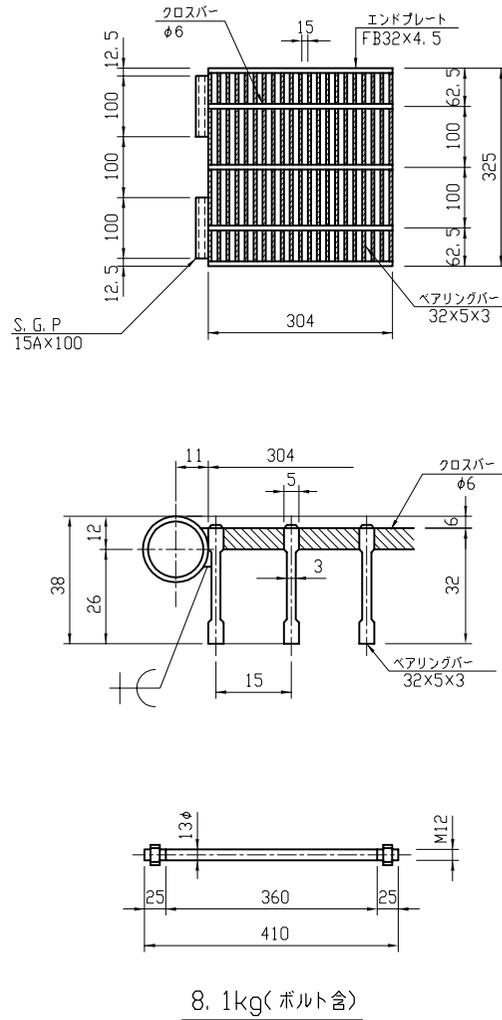
08-01  
橋梁 排水装置 (排水ます)

単位: mm

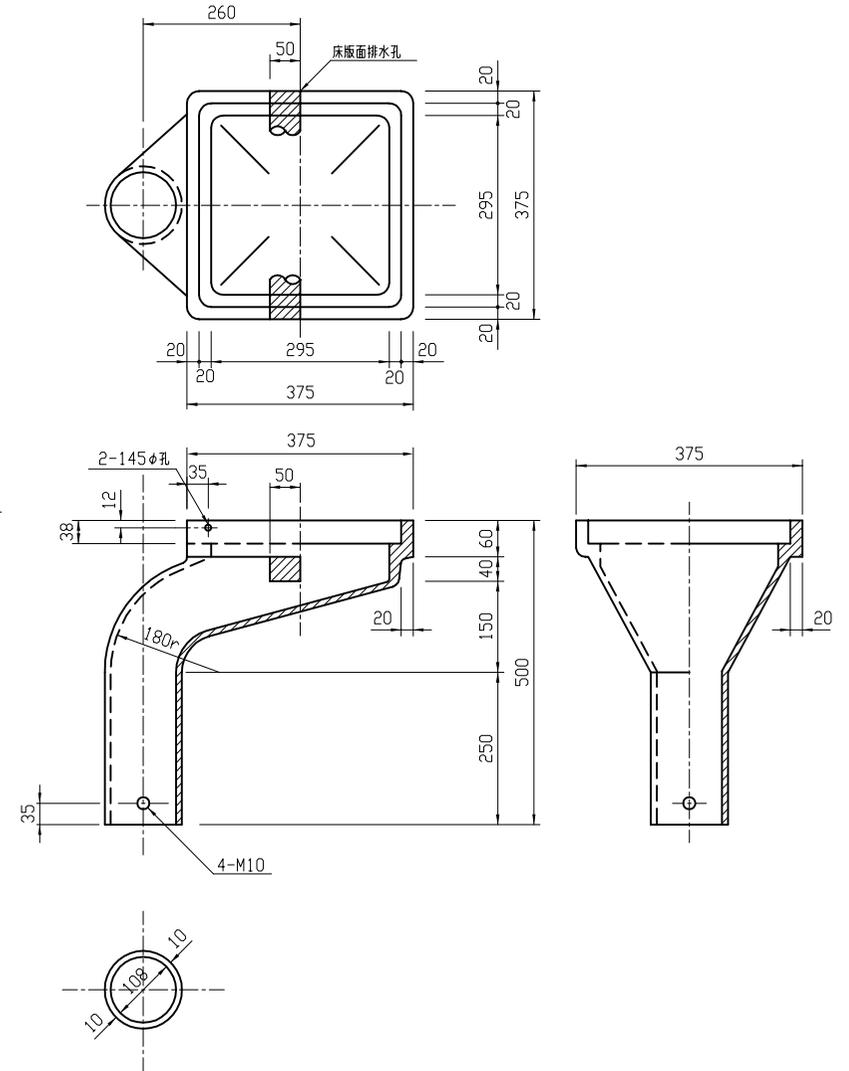
排水樹I型  
(FC250, 垂鉛メッキ)



蓋  
(垂鉛メッキ)



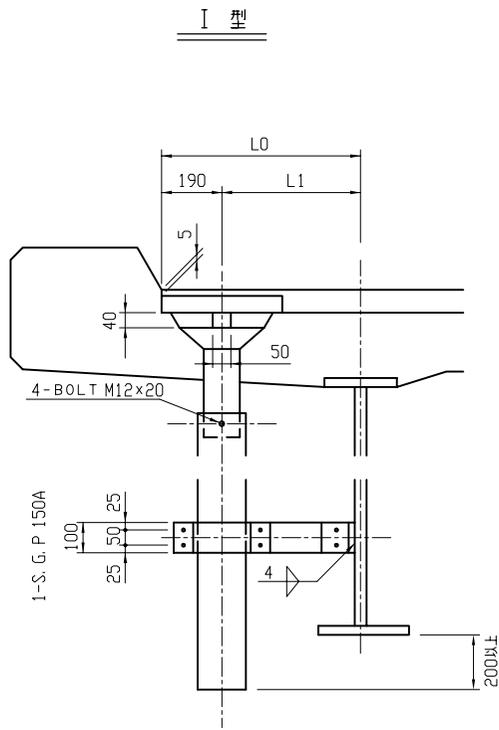
排水樹II型  
(FC250, 垂鉛メッキ)



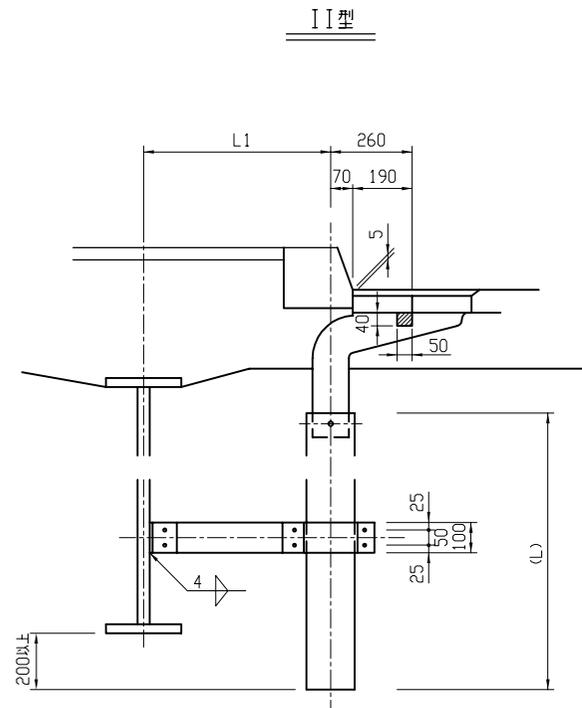
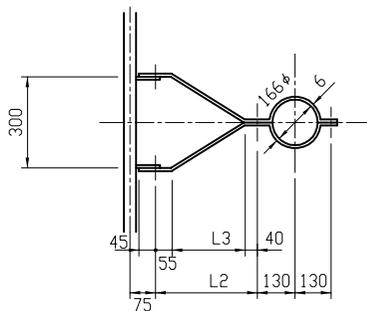
図面番号  
名称

08-02  
橋梁 排水装置 (導水管)

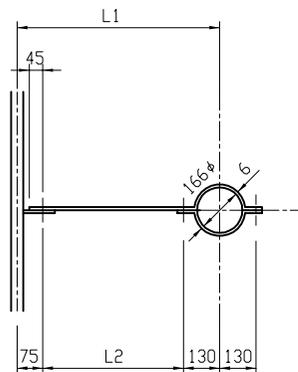
単位 : mm



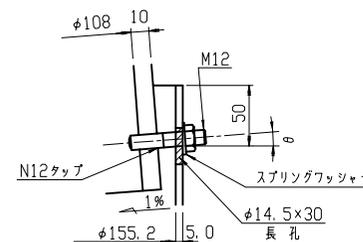
A 型 (L<sub>1</sub> ≥ 400)



B 型 (L<sub>1</sub> < 400)



排水管の取付参考例



排水装置一ヶ処当り数量調書

1) I型 (A) (L ≠ 410)

FC250	375×375	50	kg/1ヶ所
フタ	一式 (ボルト含)	8.1	"
FB	t < 100	8	"
SGP	150A	30	"
BN		1	"

2) I型 (B) (L ≠ 360)

FC250	375×375	50	kg/1ヶ所
フタ	一式 (ボルト含)	8.1	"
FB	t < 100	6	"
SGP	150A	30	"
BN		1	"

3) II型 (A) (L ≠ 850)

FC250	375×375	57	kg/1ヶ所
フタ	一式 (ボルト含)	8.1	"
FB	t < 100	12	"
SGP	150A	30	"
BN		1	"

4) II型 (B) (L ≠ 360)

FC250	375×375	57	kg/1ヶ所
フタ	一式 (ボルト含)	8.1	"
FB	t < 100	6	"
SGP	150A	30	"
BN		1	"

- 注
- 1) 排水管長 (L) は折高 1.50m を想定し算出する。
  - 2) L<sub>1</sub> は一般的傾向としそれぞれ 2 種類を想定する。
  - 3) 排水柵、蓋、排水管は亜鉛メッキを標準とする。(JIS H 8461)

図面番号  
名称

08-03  
橋梁 踏掛版受台

単位：mm

材料（受台幅1.0m当たり）

コンクリート（RC-2-1）  
 $(0.40+0.80) \times 1/2 \times 0.40 \times 1.00 = 0.24 \text{ m}^3$   
 型枠  
 $(0.40+0.57) \times ( \quad ) + 2 \times 0.24 = \quad \text{ m}^2$

受台長（W）は踏掛版幅に  
 $2 \times 0.10 = 0.20 \text{ m}$ を加算した長さとする。

※はパラベット厚500 かぶり150にて計上  
 但し、パラベット厚やかぶりによって（b）の  
 値は変化する。

ゴム質発泡系目地材（支承部）  
 $0.40 \times 1.00 = 0.40 \text{ m}^2$   
 発泡系目地材（伸縮部）  
 （踏掛版長L A = 5.00mの時）  
 $0.36 \times 1.00 = 0.36 \text{ m}^2$   
 （踏掛版長L A = 7.00mの時）  
 $0.43 \times 1.00 = 0.43 \text{ m}^2$

路面～受台天端寸法長 (単位：mm)

通行区分	Tp	車道部		
		踏掛版	支承	路面～受台
N4 交通	70	L = 5.00m t = 360mm	10	440
N5, N 交通	90		10	460
N7 交通	110		10	480
N4 交通	70	L = 7.00m t = 430mm	10	510
N5, N 交通	90		10	530
N7 交通	110		10	550

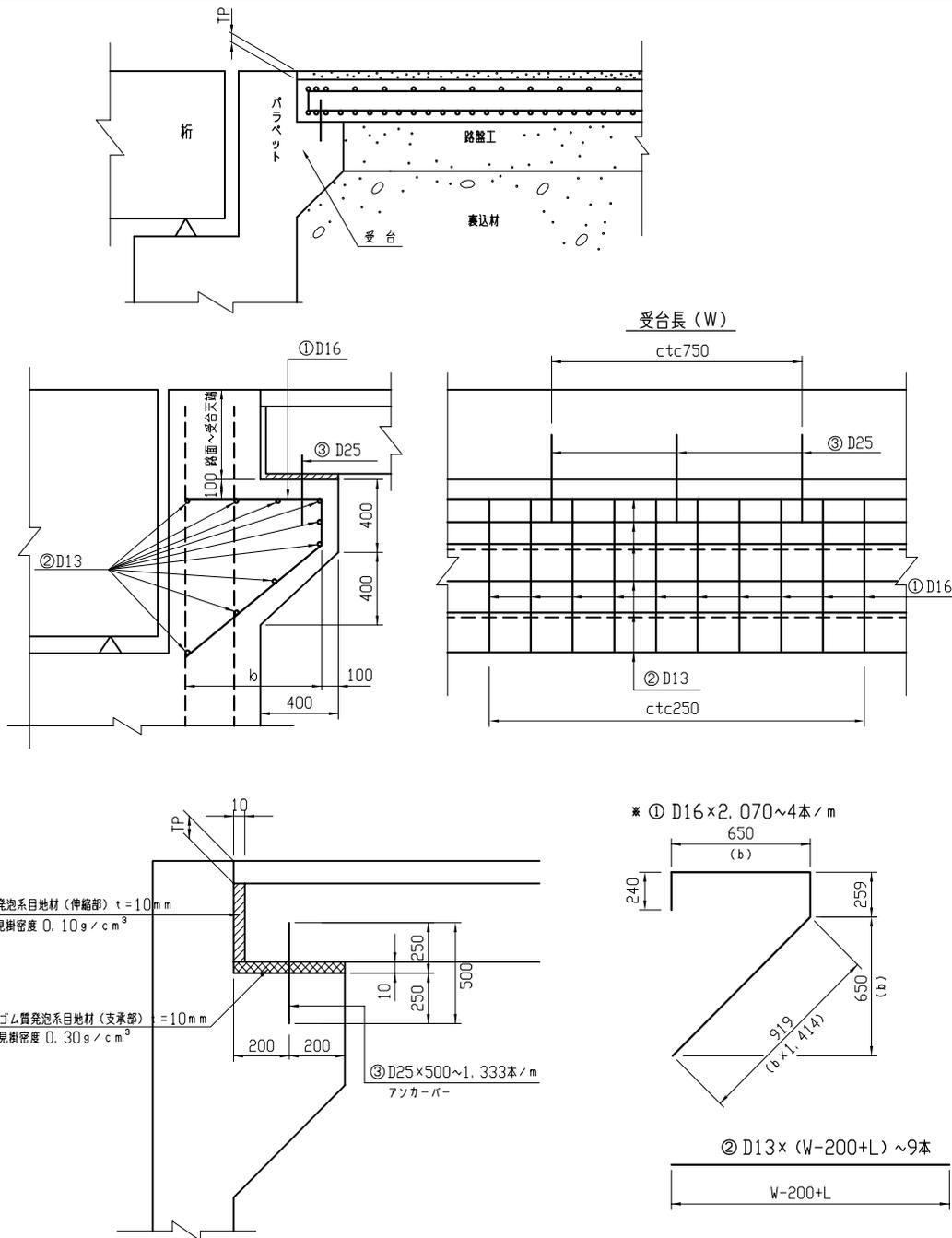
受台長（W）1.00m当たり鉄筋表（SD-345）

No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
1	16	2,070	4	1,560	3,23	12,92	
2	13	1,000	9	0,995	1,00	9,00	
3	25	500	1,333	3,980	1,99	2,65	アンカーバー
計						24,57	
径別集計							
D13						9,00	
D16						12,92	
D25						2,65	

重ね継手鉄筋表（L）（SD-345）1ヶ所当たり

No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
2	13	L	1	0,995			

注意事項：重ね継手は、鉄筋長が12.00mを越えるごとに1ヶ所分を追加すること。



図面番号  
名称

08-04  
橋梁 踏掛版 I 型 (LA5.00)

単位: mm

材料 (版幅 1.0m 当たり)

コンクリート (RC-2-1)  
 $5,00 \times 0,36 \times 1,00 = 1,80 \text{ m}^3$   
 型枠  
 $0,36 \times (W) + 0,36 \times 2 \times 5,00 = \text{m}^2$   
 ビニールシート  
 $4,70 \times 1,00 = 4,70 \text{ m}^2$

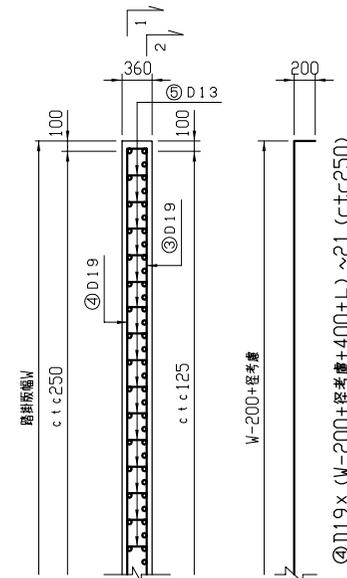
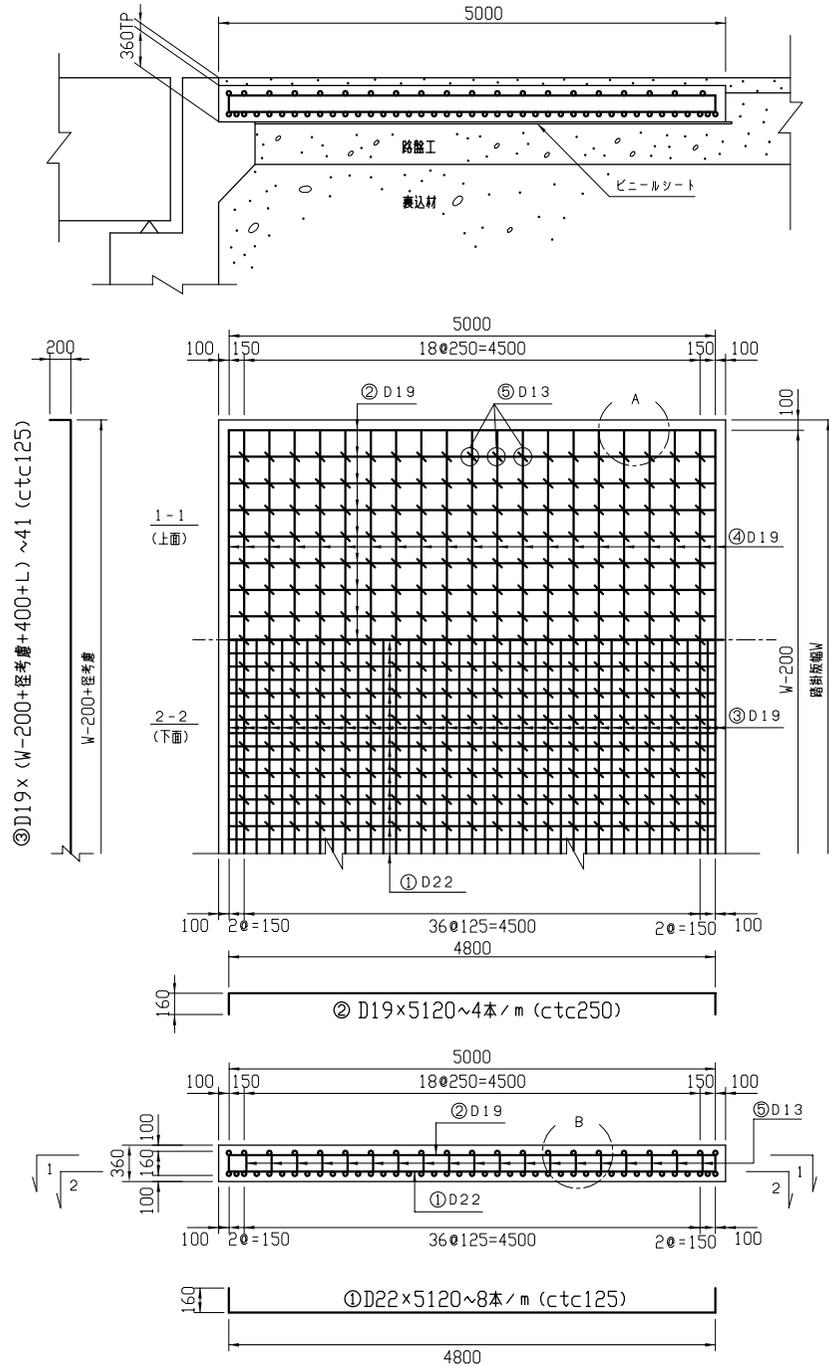
踏掛版幅 (W) 1.00m 当たり鉄筋表 (SD-345) (単位: mm)

No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
1	D22	5,120	8	3,040	15,56	124,48	
2	D19	5,120	4	2,250	11,52	46,08	
3	D19	1,000	41	2,250	2,25	92,25	
4	D19	1,000	21	2,250	2,25	47,25	
5	D13	570	76	0,995	0,57	43,32	
計						353,38	
径別集計							
D13							43,32
D19							185,58
D22							124,48

重ね継手鉄筋表 (L) (SD-345) 1ヶ所当たり

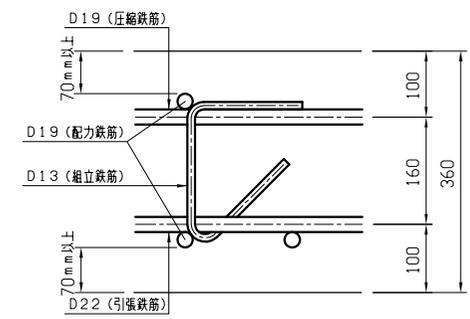
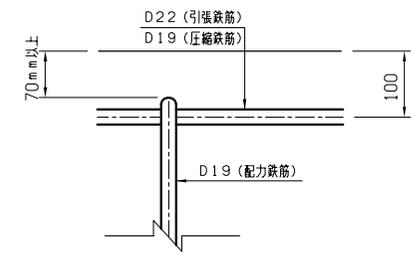
No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
3	D19	L	1	2,250			
4	D19	L	1	2,250			

注意事項: 重ね継手は、鉄筋長が 12,00m を越えるごとに 1ヶ所分を追加すること。



A部詳細

B部詳細



図面番号  
名称

08-05  
橋梁 踏掛版Ⅱ型 (LA7.00)

単位: mm

材料 (版幅1.0m当たり)

コンクリート (RC-2-1)  
7.00×0.43×1.00=3.01m<sup>3</sup>  
型 枠  
0.43×( W )+0.43×2×7.00= m<sup>2</sup>  
ビニールシート  
6.70×1.00=6.70m<sup>2</sup>

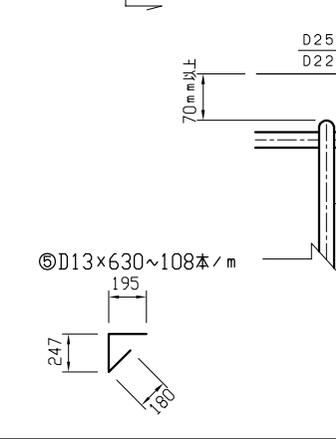
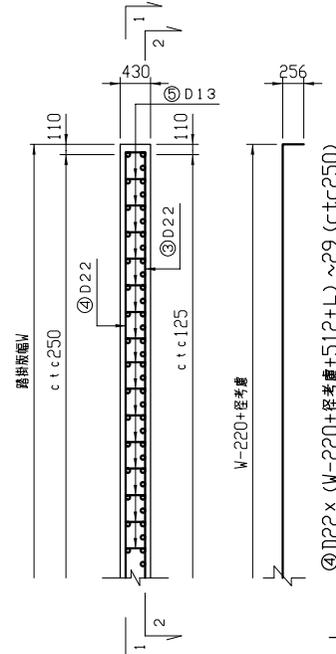
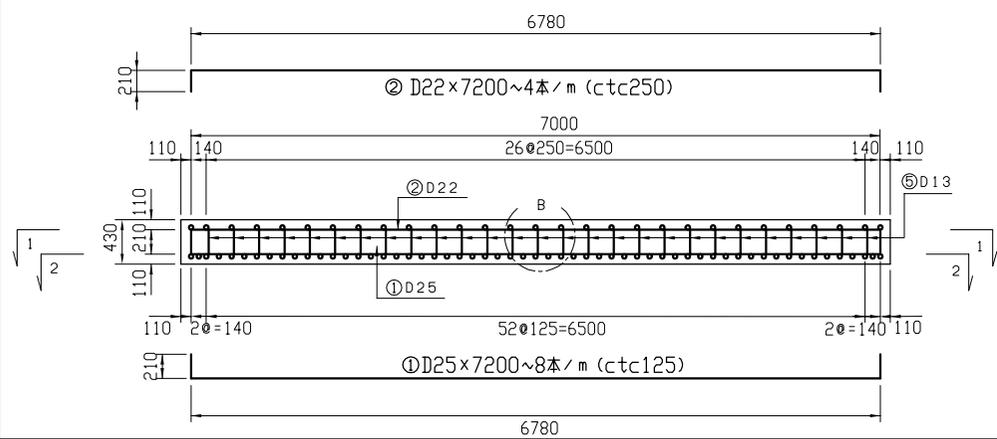
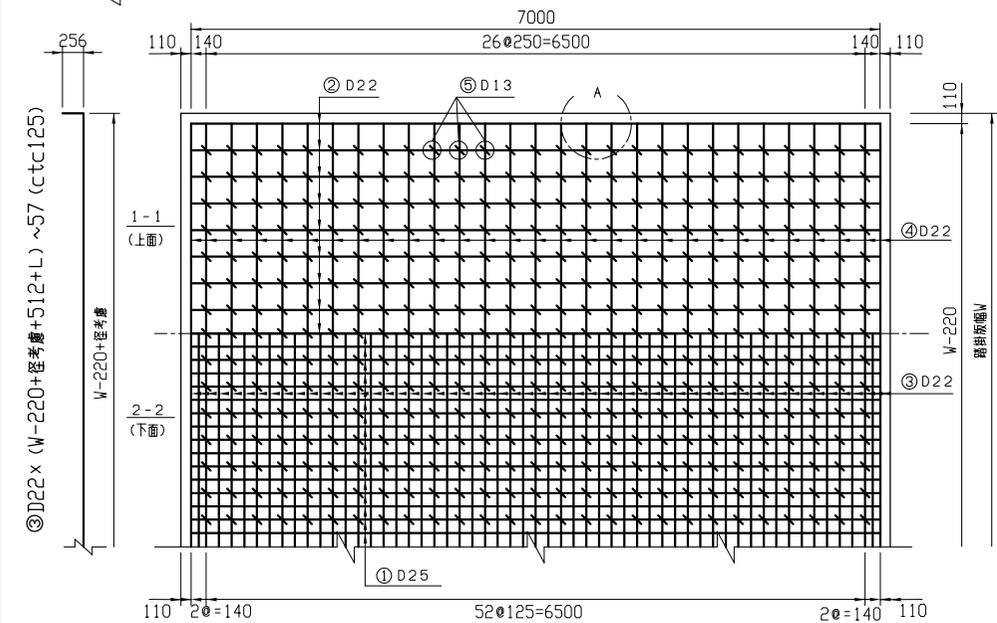
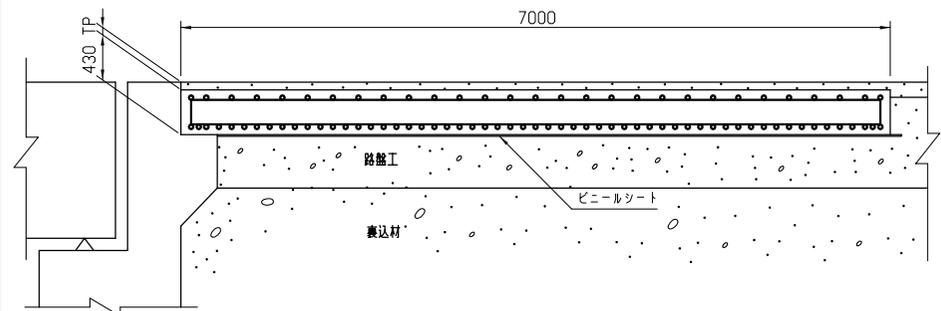
踏掛版幅 (W) 1.00m 当たり 鉄筋表 (SD-345)

No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
1	25	7,200	8	3,980	28.66	229.28	
2	22	7,200	4	3,040	21.89	87.56	
3	22	1,000	57	3,040	3.04	173.28	
4	22	1,000	29	3,040	3.04	88.16	
5	13	630	108	0,995	0.63	68.04	
計						646.32	
径別集計							
D13						68.04	
D22						349.00	
D25						229.28	

重ね継手鉄筋表 (L) (SD-345) 1ヶ所当たり

No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
3	22	L	1	3,040			
4	22	L	1	3,040			

注意事項: 重ね継手は、鉄筋長が12.00mを越えるごとに1ヶ所を追加すること。



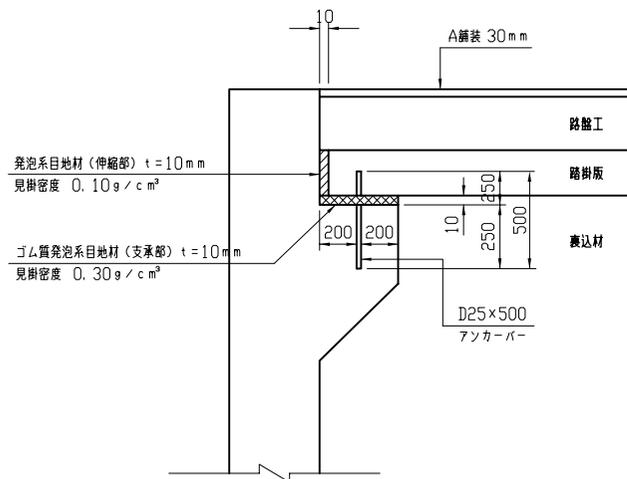
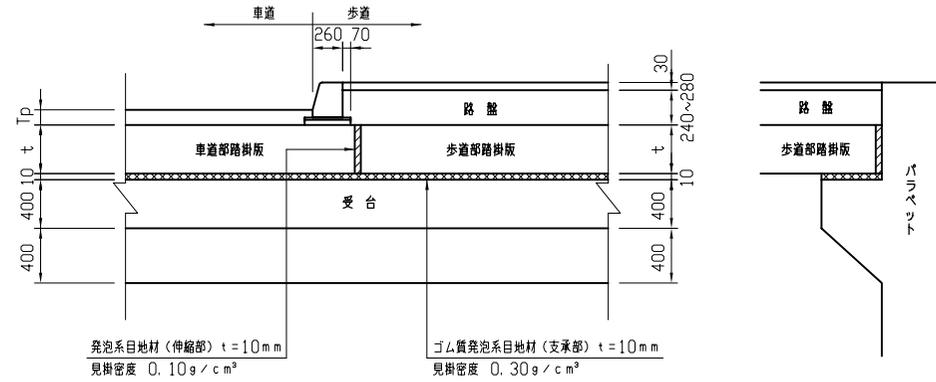
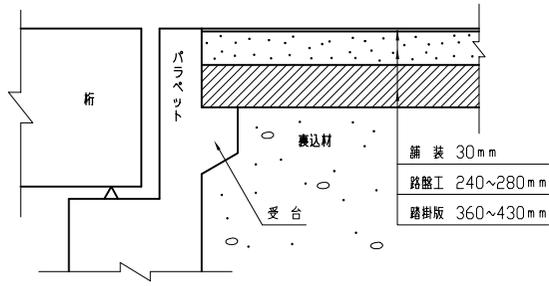
A部詳細

B部詳細

図面番号  
名称

08-06  
橋梁 踏掛版受台 (歩道)

単位：mm



路面～受台天端寸法表

(単位：mm)

		車道部			歩道部				
交通区分	Tp	踏掛版	支承	路面～受台	交通区分	Tp	踏掛版	支承	路面～受台
N <sub>4</sub> 交通	70	L = 5.00m t = 360mm	10	440	N <sub>4</sub> 交通	30	L' = 3.00m t = 360mm	10	240
N <sub>5</sub> , N <sub>6</sub> 交通	90		10	460	N <sub>5</sub> , N <sub>6</sub> 交通	30		10	260
N <sub>7</sub> 交通	110		10	480	N <sub>7</sub> 交通	30		10	280
N <sub>4</sub> 交通	70	L = 7.00m t = 430mm	10	510	N <sub>4</sub> 交通	30	L' = 3.00m t = 430mm	10	240
N <sub>5</sub> , N <sub>6</sub> 交通	90		10	530	N <sub>5</sub> , N <sub>6</sub> 交通	30		10	260
N <sub>7</sub> 交通	110		10	550	N <sub>7</sub> 交通	30		10	280

注意事項：受台幅1m当たりの材料は車道部参照のこと。

図面番号  
名称

08-07  
橋梁 踏掛版 (歩道) t=360mm

単位: mm

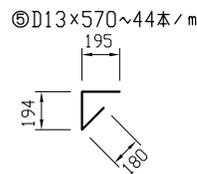
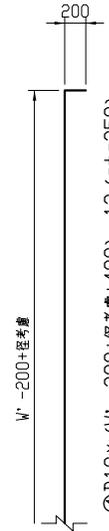
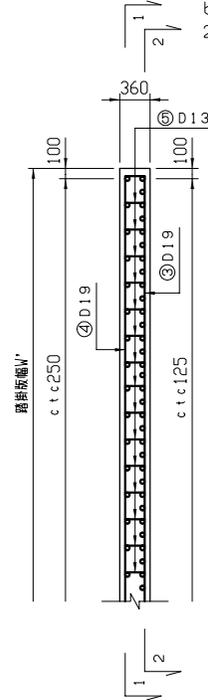
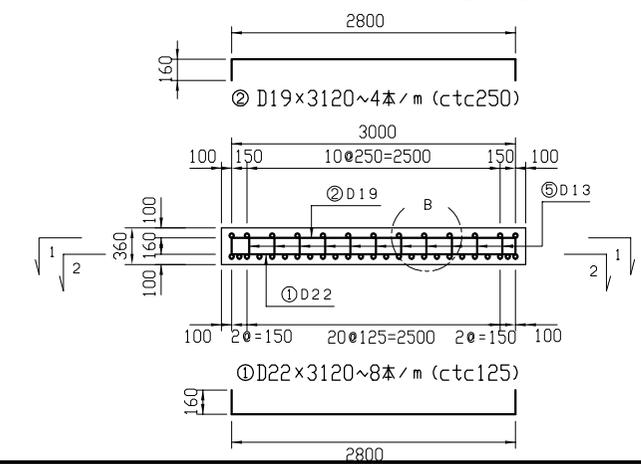
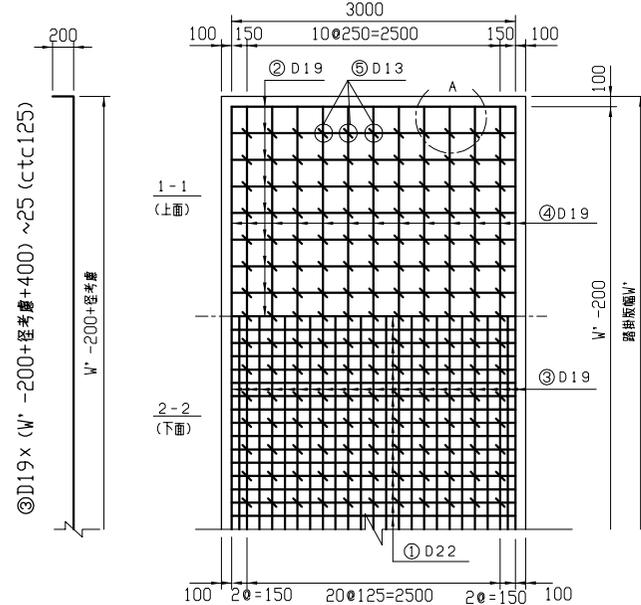
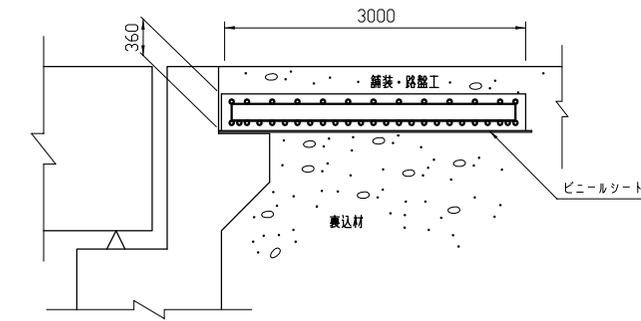
材料 (版幅 1.0m 当たり)

コンクリート (RC-2-1)  
3.00 × 0.36 × 1.00 = 1.80 m<sup>3</sup>  
型枠  
0.36 × ( W' ) + 0.36 × 3.00 = m<sup>2</sup>  
ビニールシート  
2.70 × 1.00 = 2.70 m<sup>2</sup>

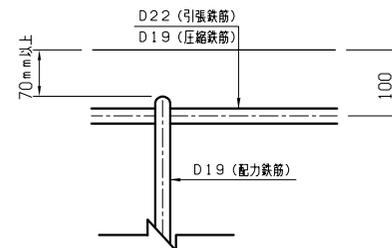
踏掛版幅 ( W' ) 1.00m 当たり鉄筋表 (SD-345)

No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
1	22	3,120	8	3,040	9.48	75.84	
2	19	3,120	4	2,250	7.02	28.08	
3	19	1,000	25	2,250	2.25	56.25	
4	19	1,000	13	2,250	2.25	29.25	
5	13	570	44	0,995	0.57	25.08	
計						214.50	

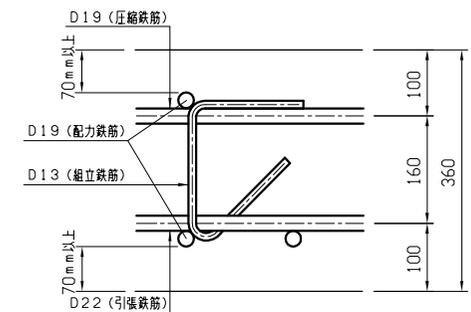
径別集計		質量 (kg)
D13		25.08
D19		113.58
D22		75.84



A部詳細



B部詳細



図面番号  
名称

08-08  
橋梁 踏掛版 (歩道) t=430mm

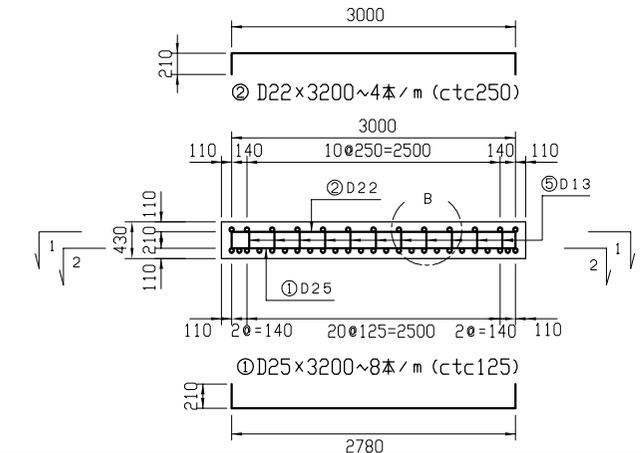
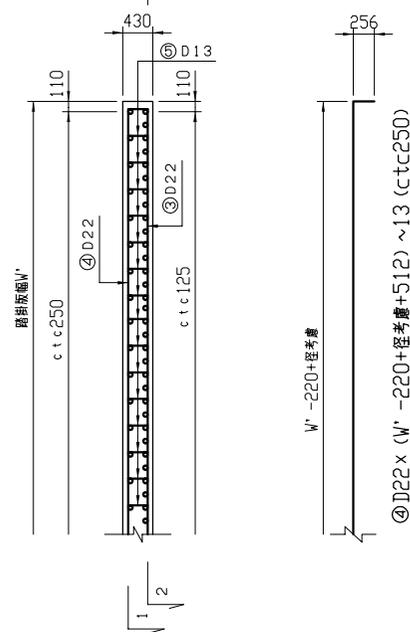
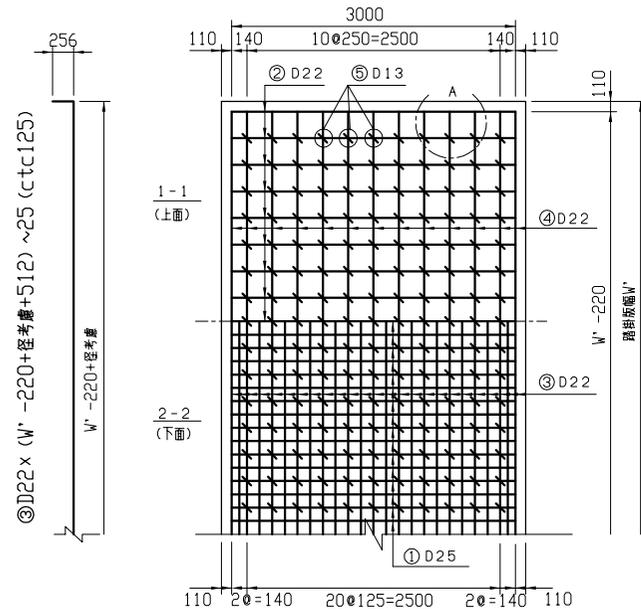
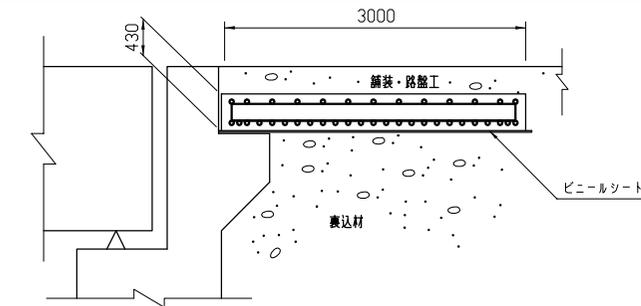
単位: mm

材料 (版幅 1.0m 当たり)

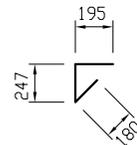
コンクリート (RC-2-1)  
3.00 × 0.43 × 1.00 = 1.29 m<sup>3</sup>  
型枠  
0.43 × ( W' ) + 0.43 × 3.00 = m<sup>2</sup>  
ビニールシート  
2.70 × 1.00 = 2.70 m<sup>2</sup>

踏掛版幅 ( W' ) 1.00m 当たり鉄筋表 (SD-345)

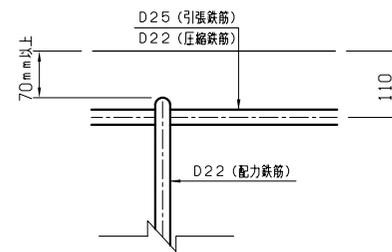
No	D	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	質量/本 (kg)	質量 (kg)	備考
1	25	3,200	8	3,980	12.74	101.92	
2	22	3,200	4	3,040	9.73	38.92	
3	22	1,000	25	3,040	3.04	76.00	
4	22	1,000	13	3,040	3.04	39.52	
5	13	630	44	0,995	0.63	27.72	
計						284.08	
別集計							
D13						27.72	
D22						154.44	
D25						101.92	



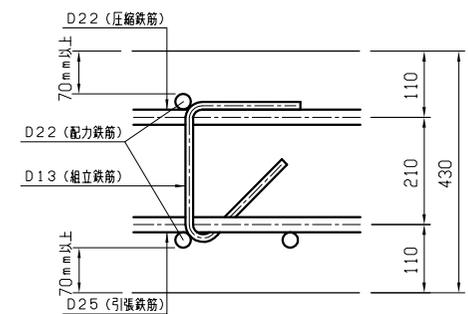
⑤ D13 × 630 ~ 44本 / m



A部詳細



B部詳細

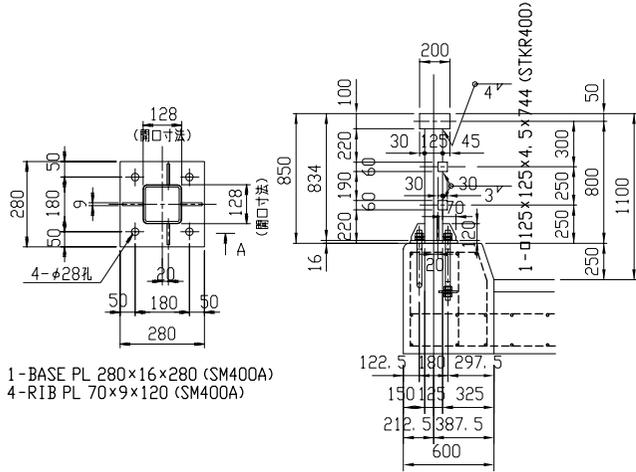




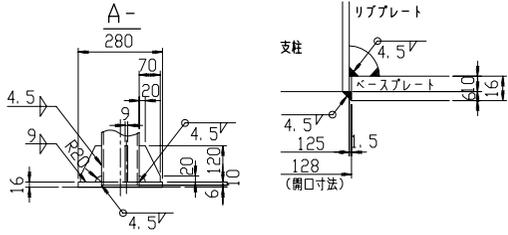
図面番号  
名称

08-10  
橋梁 車両用防護柵  
B種 (ベースプレート方式)

単位: mm

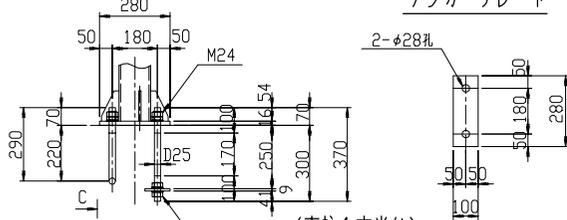


1-BASE PL 280×16×280 (SM400A)  
4-RIB PL 70×9×120 (SM400A)



アンカーボルト

アンカープレート



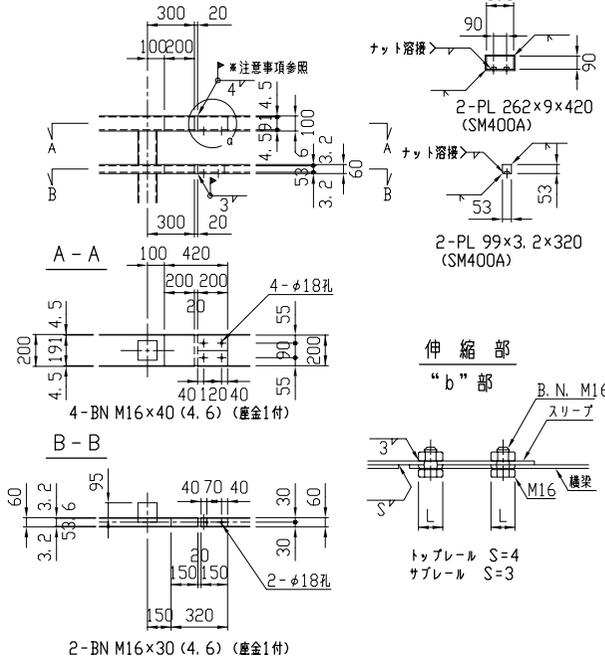
〈支柱1本当たり〉

1-BASE PL 280×16×280 (SM400A)  
4-RIB PL 70×9×120 (SM400A)  
4-NUT M24(1種)(4.6)  
4-NUT M24(3種)(4.6)  
4-平座金 M24用(4.6)

埋設部材料〈支柱1本当たり〉

1-ANCHOR PL 100×9×280 (SS400)  
2-ANCHOR BOLT D25×370 (SD345)  
1-U字 ANCHOR BOLT D25×700 (SD345)  
4-NUT M24(1種)(4.6)  
4-平座金 M24用(4.6)

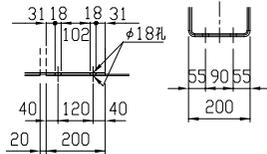
車両用防護柵 B種  
(ベースプレート方式)



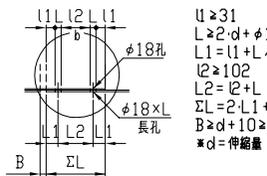
トップレール

一般部

“a”部



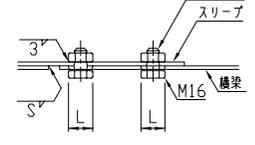
伸縮部



$L1 \geq 31$   
 $L2 \geq 2d + \phi 18$   
 $L1 = (L1 + L2) / 2$   
 $L2 \geq 102$   
 $L2 = L2 + L$   
 $\Sigma L = 2 \cdot L1 + L2$   
 $B \geq d + 10 \geq 20$   
\*d=伸縮量

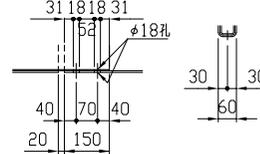
伸縮部

“b”部

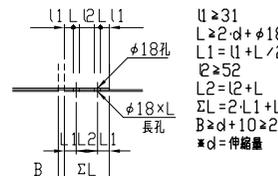


サブレール

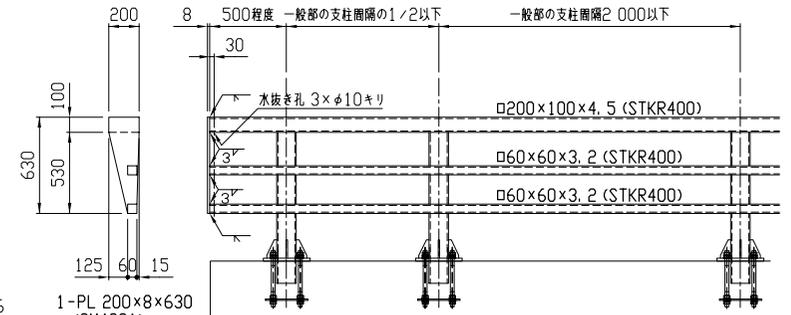
一般部



伸縮部



$L1 \geq 31$   
 $L2 \geq 2d + \phi 18$   
 $L1 = (L1 + L2) / 2$   
 $L2 \geq 52$   
 $L2 = L2 + L$   
 $\Sigma L = 2 \cdot L1 + L2$   
 $B \geq d + 10 \geq 20$   
\*d=伸縮量



\*トップ, サブレールの木抜き孔は縦断勾配の低い側とする。

材料

□200×100×4.5	20.1	kg/m
□60×60×3.2	5.50	kg/m
□125×125×4.5	16.6	kg/m
PL140×6×140	0.92	kg/枚
PL262×9×420	7.77	kg/枚
PL99×3.2×320	0.80	kg/枚
PL200×8×630	7.91	kg/枚
BN M16×30	0.124	kg/本
BN M16×40	0.138	kg/本
BASE PL 280×16×280	9.85	kg/枚
RIB PL 70×9×120	0.59	kg/枚
NUT M24 (1種)	0.11	kg/個
NUT M24 (3種)	0.08	kg/個
平座金 M24用	0.04	kg/個
ANCHOR PL 100×9×280	1.98	kg/枚
ANCHOR BOLT D25×370	1.47	kg/本
U字ANCHOR BOLT D25×700	2.79	kg/本
NUT M24 (1種)	0.11	kg/個
平座金 M24用	0.04	kg/個

塗装面積

□0.60×高欄長-0.125 <sup>2</sup> ×支柱数
□0.24×2×高欄長-0.125×0.120×2×支柱数
□(0.50×0.744-0.185×0.060×2) ×支柱数
BASE PL (0.280×0.280+0.016×0.280 ×4-0.125 <sup>2</sup> ) ×支柱数
RIB PL 0.07×0.12×2
PL 0.15×2
ANCHOR BN (4箇所) 0.021×支柱数

注意事項

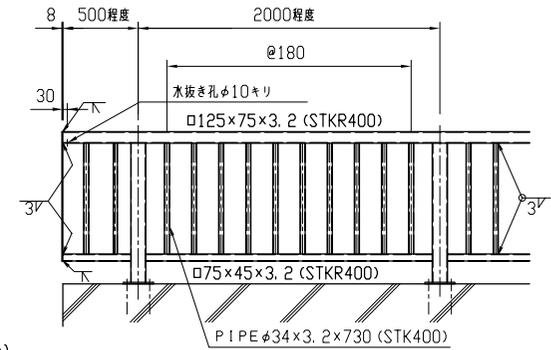
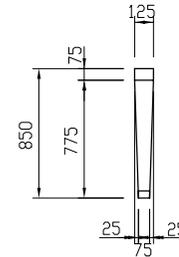
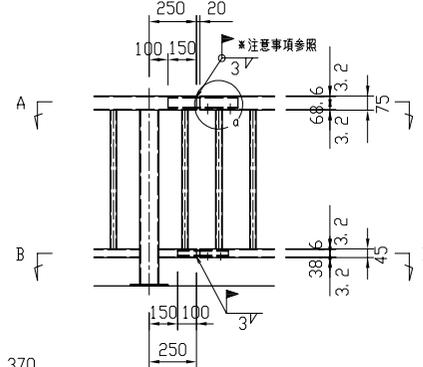
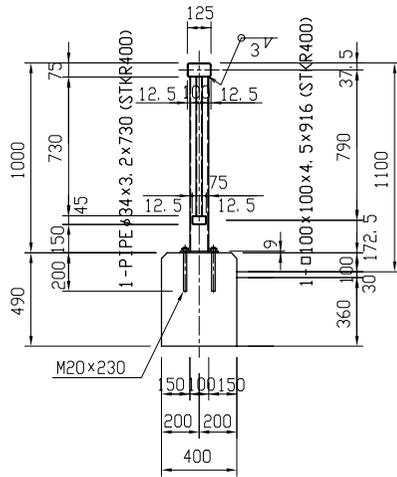
1. 橋梁継手の溶接は、現地状況を考慮して決定すること。
2. 上記溶接は、縦断勾配の低い側とし、高い側はボルト継手とする。
3. 遊間20mmは、注意事項1の誤差調整用として良い。
4. 部材強度 (静荷重実験)
  - 支柱 断面支持力  $P_w = 29.4 \text{ kN} (3.0 \text{ t f})$
  - 最大支持力  $P_{max} = 42.2 \text{ kN} (4.2 \text{ t f})$
  - 断面曲げモーメント  $M = 33.1 \text{ kN} \cdot \text{m} (3.38 \text{ t f} \cdot \text{m})$
  - 下段橋梁 断面曲げモーメント  $M = 6.4 \text{ kN} \cdot \text{m} (0.65 \text{ t f} \cdot \text{m})$
5. 部材の塗装は「土木工事共通仕様書」等の規定によること。

橋梁用高欄 歩道用高欄  
縦椋型 (ベースプレート方式)

図面番号  
名称

08-11  
橋梁 歩道用高欄  
縦椋型 (ベースプレート方式)

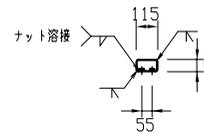
単位: mm



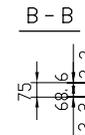
\*トURREールの水抜き孔は縦断勾配の低い側とする。



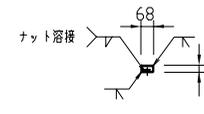
4-BN M16x30 (4.6) (塵金1付)



2-PL 168x6x370 (SA400A)



2-BN M16x30 (4.6) (塵金1付)



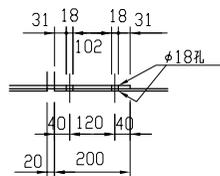
2-PL 94x6x270 (SA400A)

トURREール

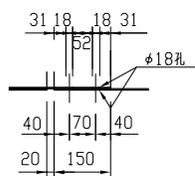
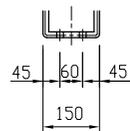
サブREール

一般部  
“a”部

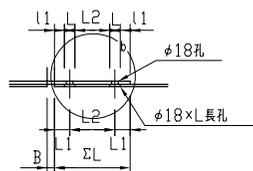
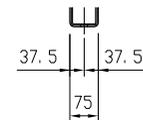
一般部



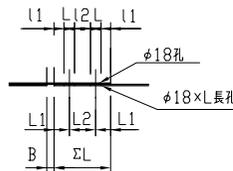
伸縮部



伸縮部

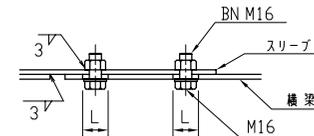


$L1 \geq 31$   
 $L \geq 2 \cdot d + \phi 18$   
 $L1 = L1 + L/2$   
 $L2 \geq 102$   
 $L2 = L2 + L$   
 $\Sigma L = 2 \cdot L1 + L2$   
 $B \geq d + 10 \geq 20$   
\*d=伸縮量



$L1 \geq 31$   
 $L \geq 2 \cdot d + \phi 18$   
 $L1 = L1 + L/2$   
 $L2 \geq 52$   
 $L2 = L2 + L$   
 $\Sigma L = 2 \cdot L1 + L2$   
 $B \geq d + 10 \geq 20$   
\*d=伸縮量

桁端伸縮部  
“b”部



注意事項

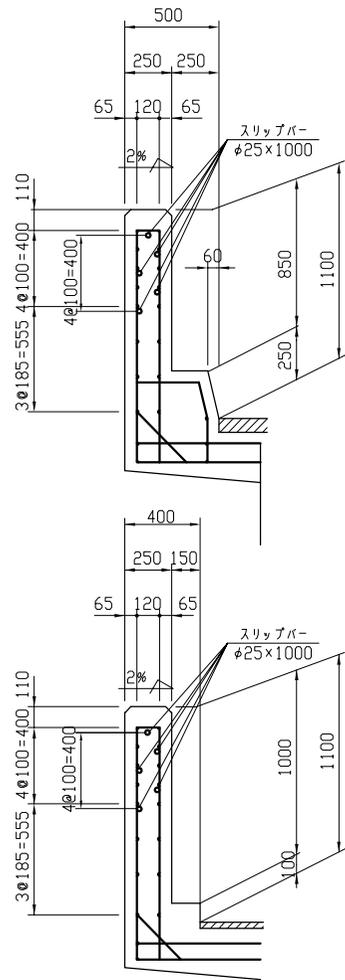
1. 橋梁継手の溶接は、現地状況を考慮し決定すること。
2. 上記溶接は、縦断勾配の低い側とし、高い側は、ボルト継手とする。
3. 遊間20mmは、注意事項1の誤差調整用として良い。
4. 部材の塗装は「土木工事共通仕様書」等の規定によること。

図面番号  
名称

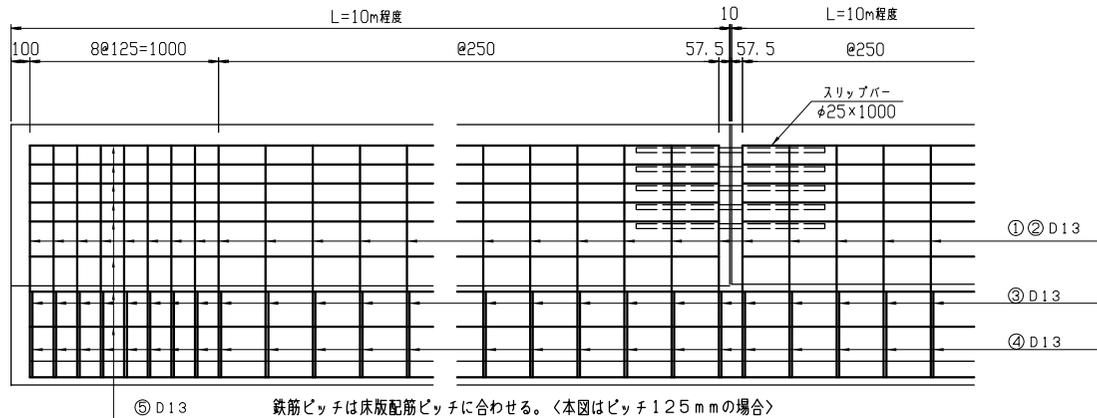
08-12-01  
橋梁 コンクリート壁式防護柵  
SC種

コンクリート壁式防護柵 SC種

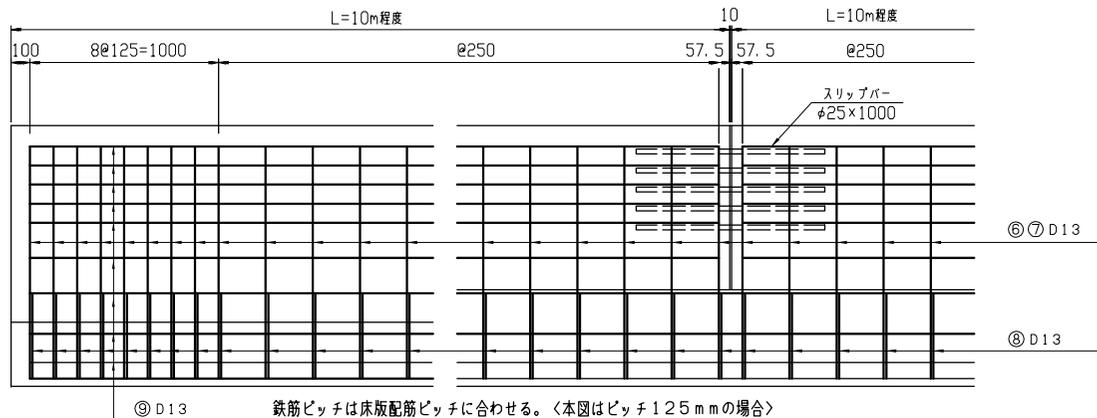
単位：mm



車道部

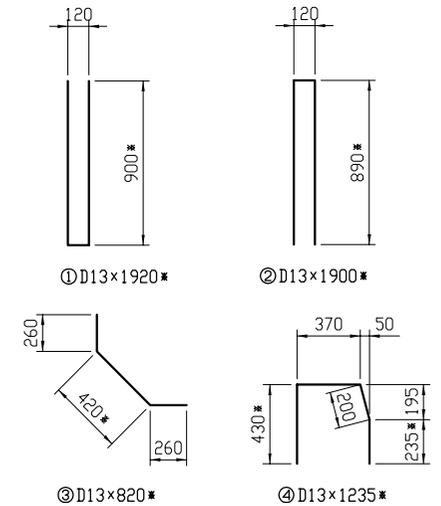


歩道部

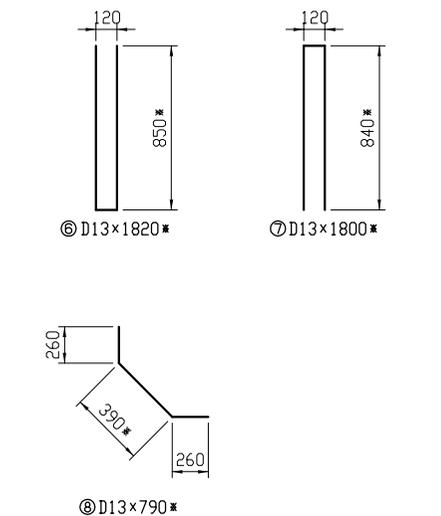


鉄筋加工図

車道部



歩道部



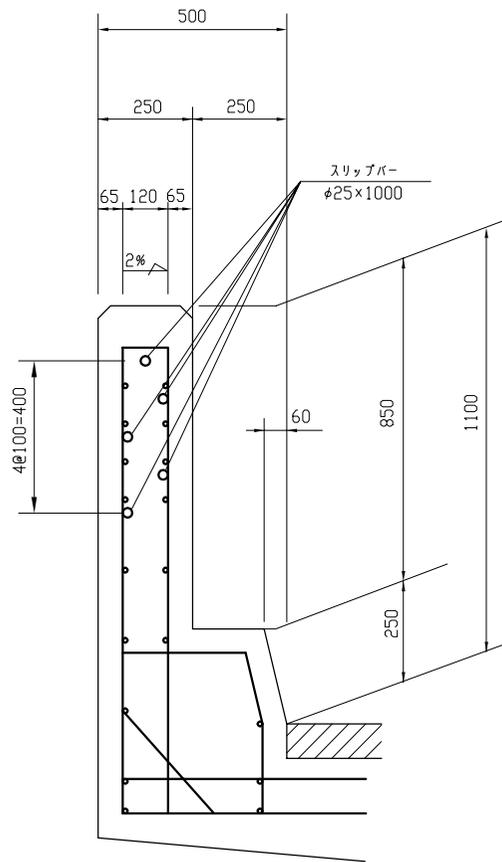
注意事項

- 鉄筋  $\sigma_{sa} = 200 \text{ N/mm}^2$  (SD345)
- コンクリート  $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$
- \*の鉄筋長は、床版厚などにより変更可とする。
- 鉄筋ピッチが125mmを越える場合には別途検討を行うこと。
- 擁壁等でSD295 ( $\sigma_{sa} = 180 \text{ N/mm}^2$ ) を使用する場合には別途検討を行うこと。
- 主鉄筋の変更を行う場合には③、④は主鉄筋と同径とし、定着長を20φ以上確保するものとする。

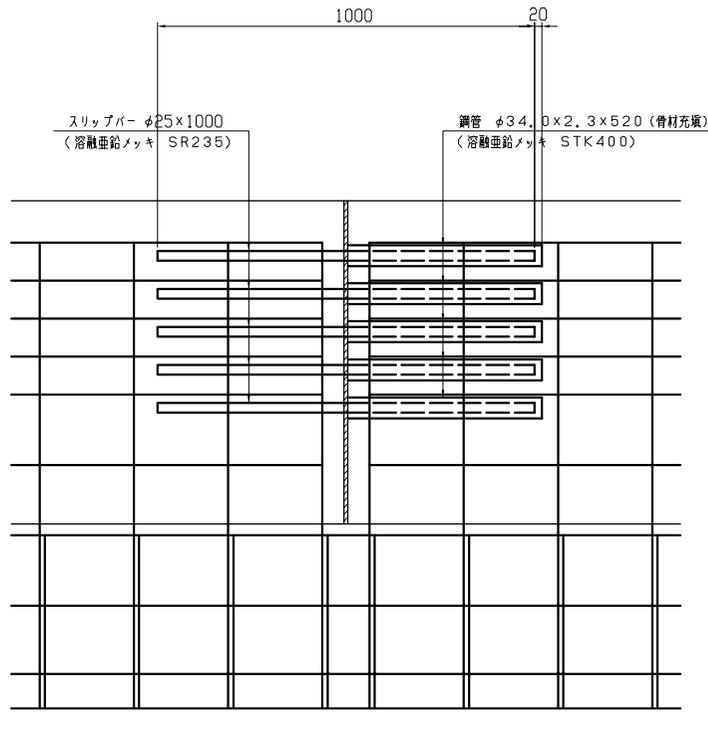
図面番号  
名称

08-12-02  
橋梁 コンクリート壁式防護柵  
SC種 (目地部)

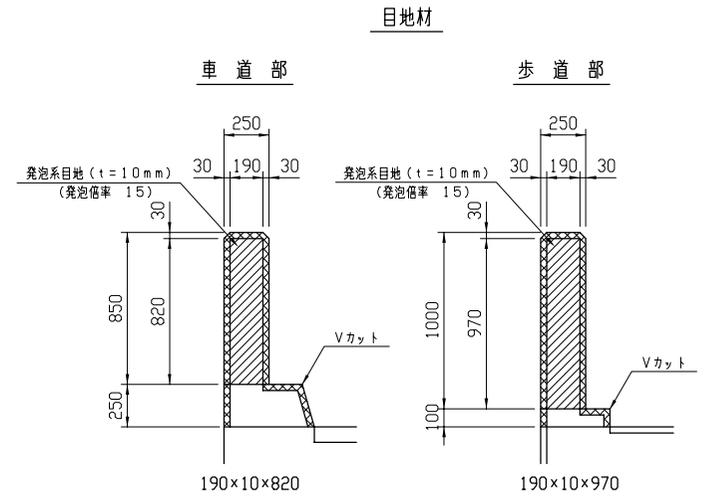
単位: mm



コンクリート壁式防護柵 SC種  
(目地部)



スリッパの構造は、車道部、歩道部共に共通である。

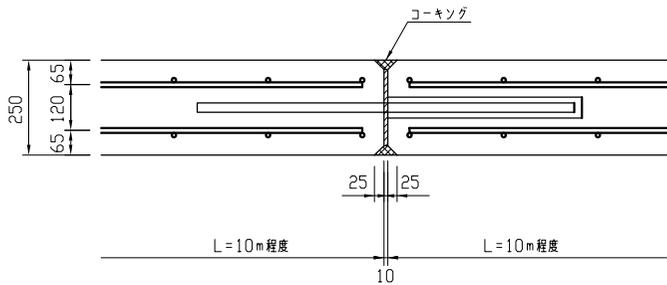


目地材

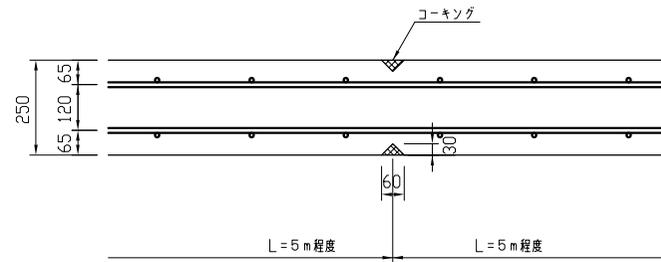
車道部

歩道部

目地部



Vカット





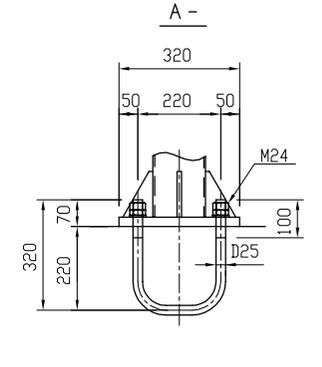
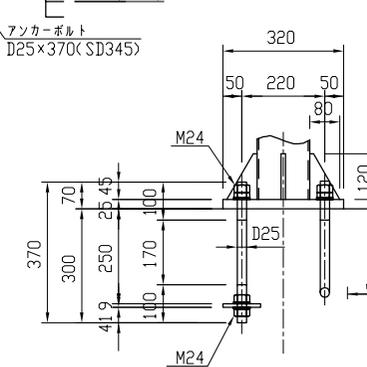
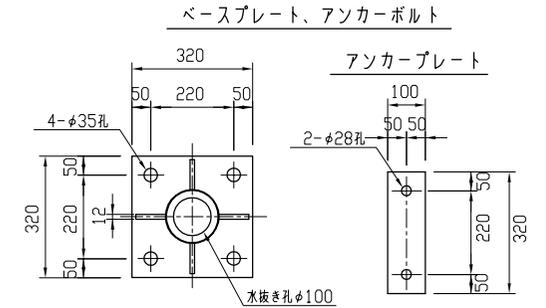
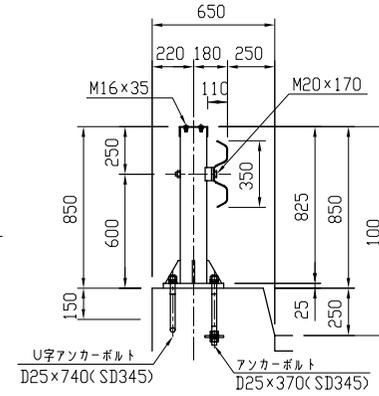
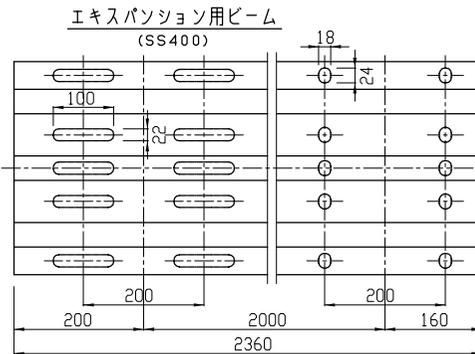
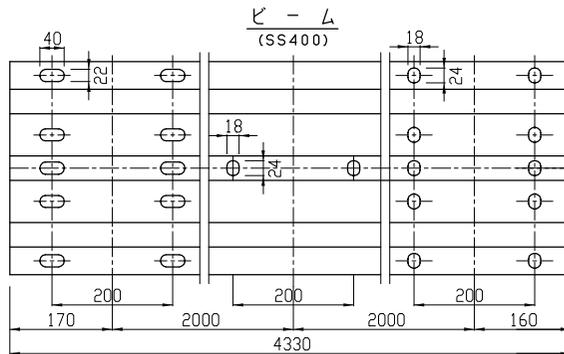
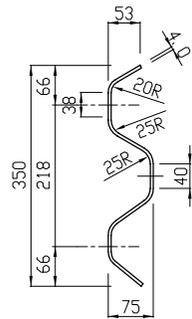
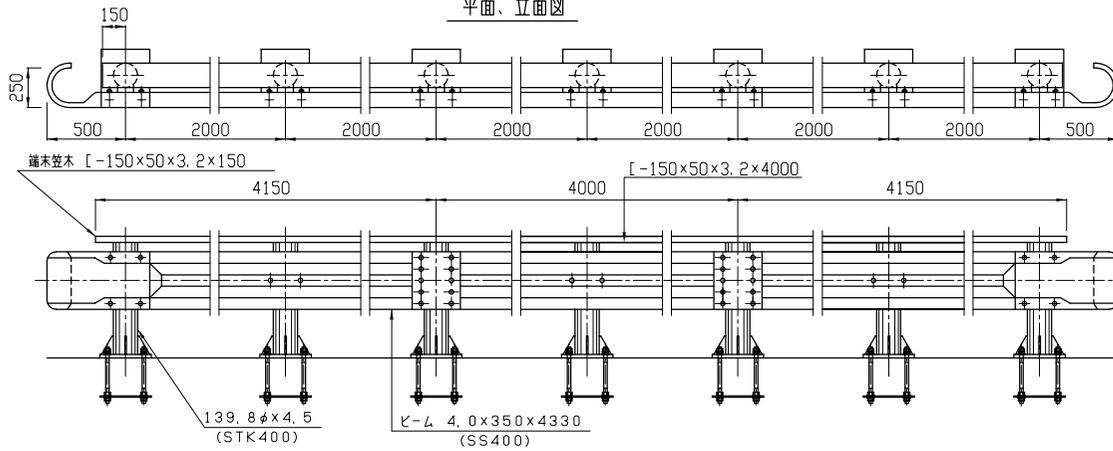


図面番号  
名称

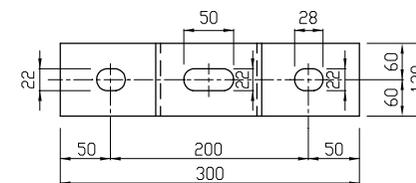
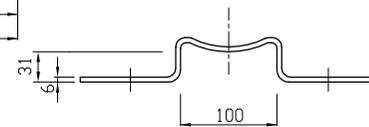
08-15  
橋梁 車両用防護柵  
Gr-A2-2B (ベースプレート方式)

単位: mm

平面、立面図



ブラケット  
(SS400)



〈支柱1本当たり〉

- 1-BASE PL 320×25×320 (SM400A)
- 4-RIB PL 80×12×120 (SM400A)
- 4-NUT M24(1種)(4.6)
- 4-NUT M24(3種)(4.6)
- 4-平座金 M24用(4.6)

埋設部材料〈支柱1本当たり〉

- 1-ANCHOR PL 100×9×320 (SS400)
- 2-ANCHOR BOLT D25×370 (SD345)
- 1-U字 ANCHOR BOLT D25×740 (SD345)
- 4-NUT M24(1種)(4.6)
- 4-平座金 M24用(4.6)

仕様記号	種別	衝撃度 (KJ)	主な用途	支持条件	車面の最大進入行程 (m)	車面重心加速度 (m/s <sup>2</sup> /10m/s)	仕様の適用範囲と留意事項			備考
							形状・寸法の変更	支持条件の変更	施工上の留意事項	
Gr-A2-2B	A	130	路側用耐雪型	図示	0.07	128	車両用防護柵標準仕様・同解説 平成16年3月 (社)日本道路協会 別紙1参照			

※1 塗装仕上げによる場合は、めっき面に腐蝕亜鉛処理などの下地処理を行って塗装する。

※2 溶融亜鉛メッキ仕上げとする場合、亜鉛の付着量はJIS H 8641 HDZ 55に準ずるものとする(金具類はHDZ 35)。

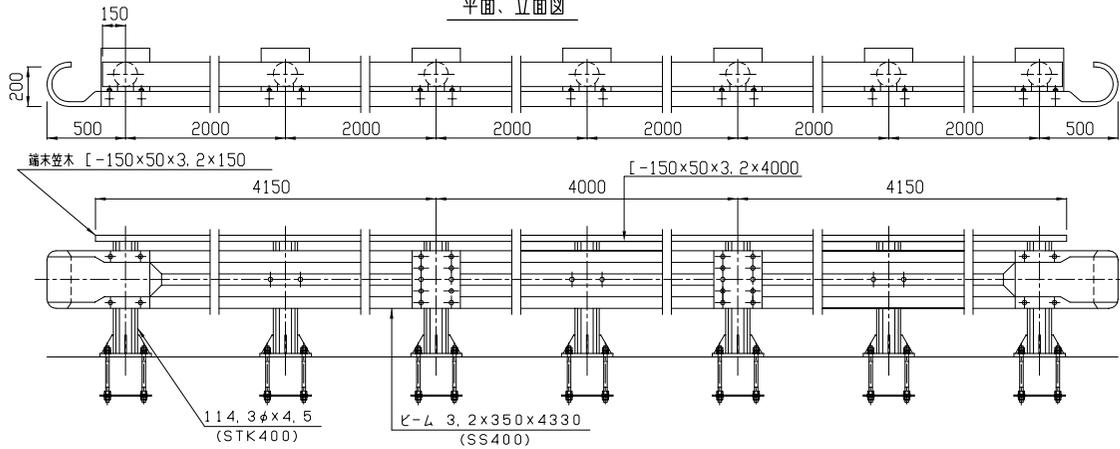
この場合、亜鉛の付着量はJIS G 3302 Z27以上とし、塗装は熱硬化性アクリル樹脂系塗料、熱硬化ポリエステル樹脂系塗料またはこれと同等以上の塗料を使用し、塗膜厚は最小20μmを確保すること。

図面番号  
名称

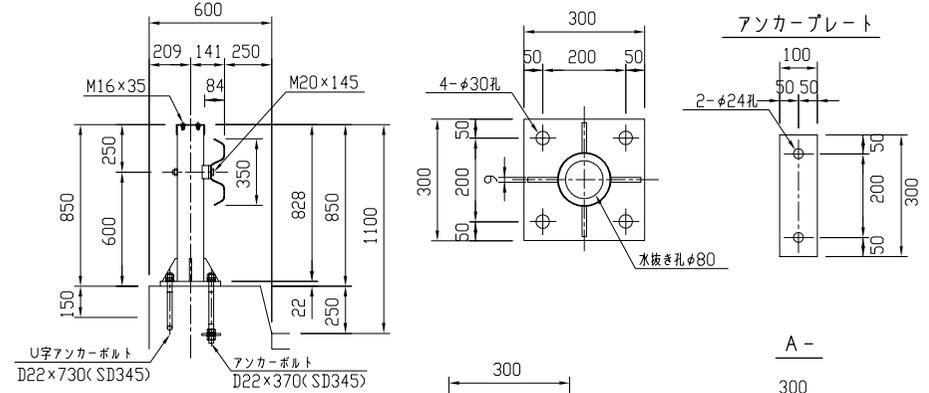
08-16  
橋梁 車両用防護柵  
Gr-B2-2B (ベースプレート方式)

単位: mm

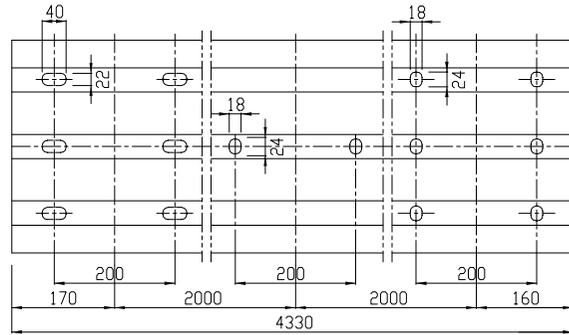
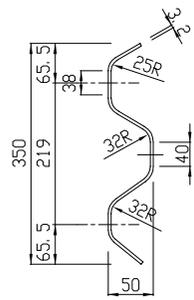
平面、立面図



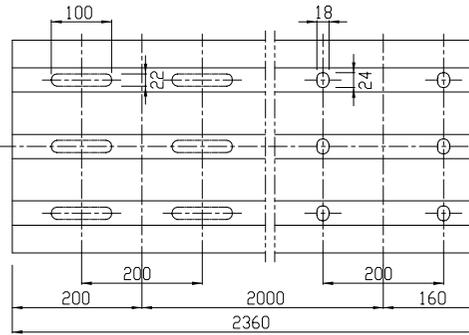
ベースプレート、アンカーボルト



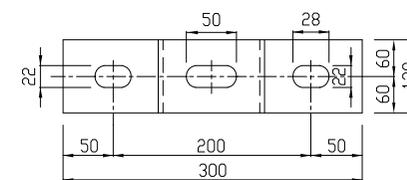
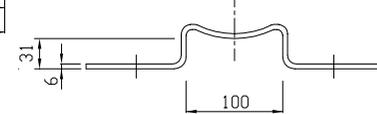
ビーム  
(SS400)



エキパンション用ビーム  
(SS400)



ブラケット  
(SS400)



〈支柱1本当たり〉

- 1-BASE PL 300×22×300 (SM400A)
- 4-RIB PL 70×9×120 (SM400A)
- 4-NUT M20(1層) (4.6)
- 4-NUT M20(3層) (4.6)
- 4-平座金 M20用(4.6)

埋設部材料〈支柱1本当たり〉

- 1-ANCHOR PL 100×9×300 (SS400)
- 2-ANCHOR BOLT D22×370 (SD345)
- 1-U字 ANCHOR BOLT D22×730 (SD345)
- 4-NUT M20(1層) (4.6)
- 4-平座金 M20用(4.6)

注意事項: 溶融亜鉛メッキ仕上げの場合は、補ビームの板厚を3.2mmとする。

仕様記号	種別	衝撃度 (KJ)	主な用途	支持条件	車面の最大進入行程 (m)	車面重心加速度 (m/s <sup>2</sup> /10ms)	仕様の適用範囲と留意事項			備考
							形状・寸法の変更	支持条件の変更	施工上の留意事項	
Gr-B2-2B	B	60	路側用耐雪型	図示	0.00	67	車両用防護柵標準仕様・同解説 平成16年3月 (社)日本道路協会 別紙1参照			

\*1 塗装仕上げによる場合は、めっき面に犠牲亜鉛処理などの下地処理を行って塗装する。

\*2 溶融亜鉛メッキ仕上げとする場合、亜鉛の付着量はJIS H 8641 HDZ 55に準ずるものとする(金具類はHDZ 35)。

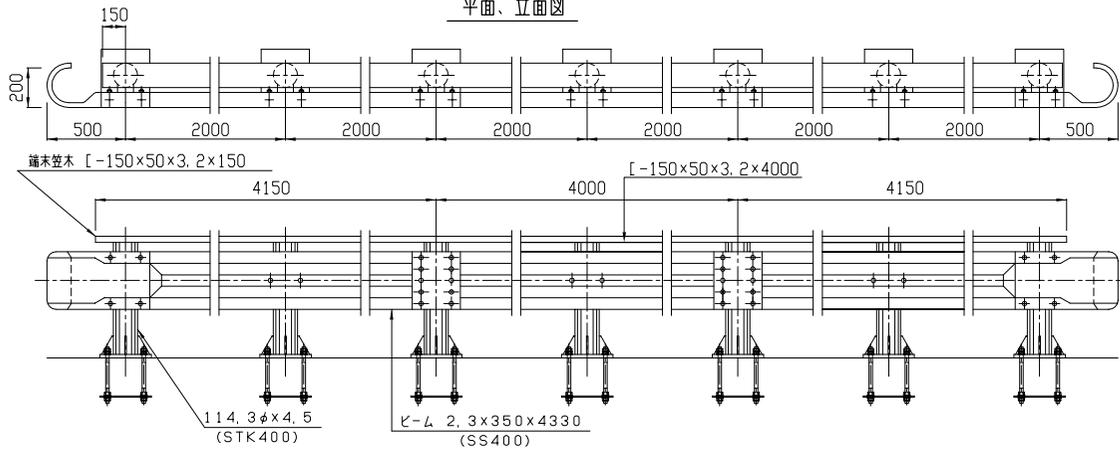
この場合、亜鉛の付着量はJIS G 3302 Z27以上とし、塗装は熱硬化性アクリル樹脂系塗料、熱硬化ポリエステル樹脂系塗料またはこれと同等以上の塗料を使用し、塗膜厚は最小20μmを確保すること。

図面番号  
名称

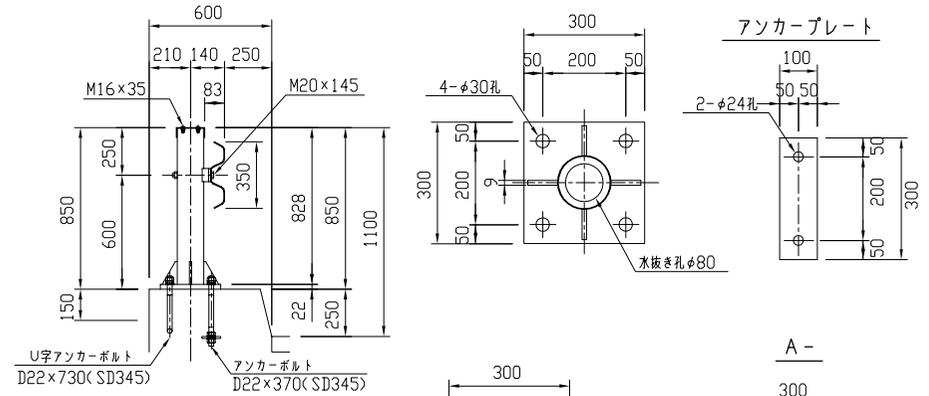
08-17  
橋梁 車両用防護柵  
Gr-C2-2B (ベースプレート方式)

単位: mm

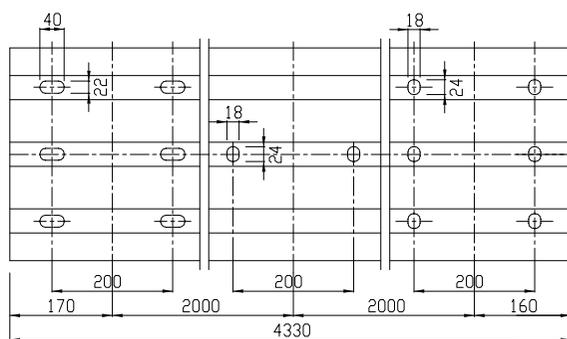
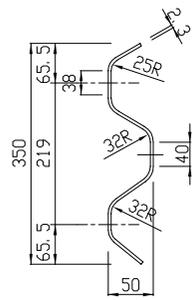
平面、立面図



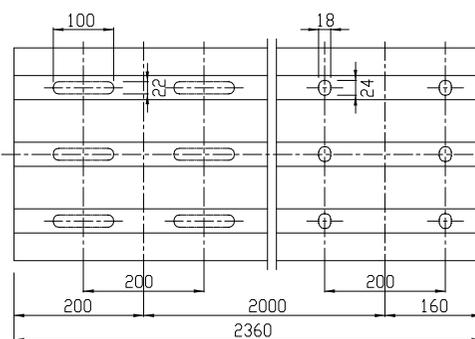
ベースプレート、アンカーボルト



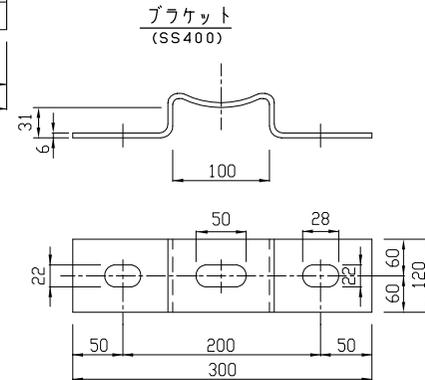
ビーム  
(SS400)



エキスパンション用ビーム  
(SS400)



ブラケット  
(SS400)



〈支柱1本当たり〉

- 1-BASE PL 300×22×300 (SM400A)
- 4-RIB PL 70×9×120 (SM400A)
- 4-NUT M20(1種)(4.6)
- 4-NUT M20(3種)(4.6)
- 4-平座金 M20用(4.6)

埋設部材料〈支柱1本当たり〉

- 1-ANCHDR PL 100×9×300 (SS400)
- 2-ANCHDR BOLT D22×370 (SD345)
- 1-U字 ANCHDR BOLT D22×730 (SD345)
- 4-NUT M20(1種)(4.6)
- 4-平座金 M20用(4.6)

仕様記号	種別	衝撃度 (KJ)	主な用途	支持条件	車両の最大 進入行程 (m)	車両重心加速度 (m/s <sup>2</sup> /10m/s <sup>2</sup> )	仕様の適用範囲と留意事項			備考
							形状・寸法の変更	支持条件の変更	施工上の留意事項	
Gr-C2-2B	C	45	路側用耐雪型	図示	0.00	66	車両用防護柵標準仕様・同解説 平成16年3月 (社)日本道路協会 別紙1参照			

\*1 塗装仕上げによる場合は、めっき面に硫酸亜鉛処理などの下地処理を行って塗装する。  
\*2 溶融亜鉛メッキ仕上げとする場合、亜鉛の付着量はJIS H 8641 HDZ 55に準ずるものとする(金具類はHDZ 35)。  
この場合、亜鉛の付着量はJIS G 3302 Z27以上とし、塗装は熱硬化性アクリル樹脂系塗料、熱硬化ポリエステル樹脂系塗料またはこれと同等以上の塗料を使用し、塗膜厚は最小20μmを確保すること。

注意事項: 溶融亜鉛メッキ仕上げの場合、ガードレールはB種を用いること。